

みんなの力で おいしいマグロを いつまでも
発行・社団法人 責任あるまぐろ漁業推進機構

限られた資源、消費者に理解してもらいたい

東京築地魚市場大物業会 布施喬会長に聞く マグロの価格が上がった理由は？

世界のマグロが集まると言われる築地市場。マグロを“大物”と呼ぶこの築地市場で、毎日3000本を超えるマグロの品質を見極め適正な価格をつける、マグロの仲卸組織が大物業会だ。最近、マグロの価格が急に上がっているという。国際的に船を減らそうという取り組みなどさまざまな理由があるようだが、消費者にとってマグロの値段が上がるとなると黙っているわけにもいかない。毎日マグロを見続けているマグロのプロである大物業会の布施喬会長に、どうしてマグロが値上がりしたのか、この状況を消費者はどう受け止めればいいのか聞いてみた。
(インタビュー・浮須雅樹)



刺身マグロの供給は減りましたか？

布施会長 40キロ以上あるようなメバチや冷凍のホンマグロ(クロマグロ)などが市場に入ってくる数は大きく変わっていませんが、今年の春先からは、25キロ程度の中型サイズのメバチマグロや小さいインドマグロ(ミナミマグロ)それにキハダマグロは減りました。価格も、キハダマグロの場合昨年暮れにキロあたり400円だった卸価格は、いまキロあたり750円から800円と倍の価格になっています。それでも品質的には低ランクのものですから、値上がり具合がいかにか急だったかわかってもらえらと思います。大型のメバチマグロも後になって値上がりをはじめ、春先まではキロ500円から650円だったものが、いまは800円から850円になっています。

どうしてマグロの価格が急に上がったのですか？

布施会長 マグロの人气が急に上がって価格が上がったものではありません。上がった原因は、これからマグロが減ってくるということがわかったからです。最近では新聞やテレビなどでも取り上げられているのでご存じの方も多いかもかもしれませんが、マグロを獲る船がこれから減ること

になったのです。たとえば現在一番マグロ船が多い台湾は、急速にマグロ船を増やして世界の海でマグロを獲りまくっていましたが、ほかの国から「そんなやり方ではマグロ資源が悪化してしまうから船の数を減らしなさい」と言われ、2007年末までに194隻も減らすことを決めました。また、日本のマグロ船も、船を動かす燃料価格が原油価格の高騰で一年前の倍近くに値上がったことで経営が苦しくなり、漁業をやめてしまう会社が増えたのです。燃料が値上がった時にマグロの値段も上がっていったらそうしたこともなかったでしょうが、最近では安売りなどが当たり前となって、なかなかマグロの値段が上がらず、漁業者も経営できなくなってしまったようです。いまマグロの値段が上がっていますが、やはりマグロは日本人にとっては欠かせないものですから、なんとか日本船には頑張ってもらいたいですね。

まだまだマグロの値段は上がりそうですか？

布施会長 わかりませんが、秋から市場に来るマグロの数は減ってくるのではと思っています。年末などマグロを食べる機会が増える時期になるとマグロが足りない状況になってくるかもしれません。

でも、スーパーマーケットなどで見ると、まだマグロがそんなに高くなっているようには感じないのですが。

布施会長 マグロはこの2~3か月で急に上がりました。かつて石油ショックの時トイレットペーパーがなくなると言われ、買い求める人でパニックになったことがありましたよね。いまのマグロはそれに近いですが、マグロの場合、価格が上がるのは急過ぎるとしても、今後数量が減るのは確実ですから、これから先反動で下がるようなことは考えにくいと思います。ではなぜスーパーマーケットの価格があまり変わらないのかというのは、生産者と消費者の仲介役を果たすわれわれ仲卸などが価格の上昇分を負担しているからです。スーパーマーケットなども計画的に仕入れたりしていますから、急な値上がりに対応できない場合があります。(2面につづく)

(1面からつづく)

大物業会ではこの事態にどう対応されましたか？

布施会長 先日、市場でマグロがなぜ急騰したのかをまず自分たちが知らないといけないと思い、行政の人たちを招いて説明会を開きました。そこで聞いた話をお客さんである寿司屋さんや鮮魚小売商、スーパーマーケットなどに知らせ、最近少しずつ理解してもらえるようになりました。理解してもらう間、私の店も仕入値が上がっているのに販売価格は値上げすることができず、5月はマグロを売れば売るほど赤字になる状態でしたから。

マグロが高くなると消費者は食べなくなってしまうのでは？

布施会長 あまり急に値上がると、消費者もマグロ以外の魚を選ぶようになるかもしれません。それがないように私たちは消費者への影響ができるだけ少なくなるように努力しています。そして消費者の方にはなぜマグロが高くなっているのかを知ってもらいたいですね。ご存知の通り、マグロはほとんどが天然です。天然を育てて大きくした養殖マグロも増えていますが、やはり天然が圧倒的に多い。それは逆に獲りすぎればなくなってしまうものだという事です。それを防ぐために日本やほかの国が話しあって船を減らしたりしてマグロの資源を守ろうとしています。私たちも状況をお客さんのスーパーマーケットや鮮魚小売商などに説明していきますが、消費者の方にも理解してもらう必要があります。それにマグロは日本人にとって欠かせない魚です。毎日売っている私自身もマグロは大好きで、毎日のように食べています。マグロほど毎

日食べても飽きない魚はないと思います。私たちも消費者のみなさんに納得して食べてもらえるよう、高くなりすぎないようにしっかり評価していきますので、消費者にはいまのマグロの価格について冷静に理解してもらいたいですね。そのために大物業会でもマグロのいまの状況を知ってもらうためのホームページを作ろうと考えています。できた時はぜひ見てください。

漁業者はもっと丁寧な扱いを

仲卸としてマグロの漁業者に言いたいことはありますか？

布施会長 マグロの数が減るのが確実に上がった以上、漁業者には獲る時凍結する時などこれまで以上にマグロを丁寧に扱ってもらいたいですね。市場でマグロを見ていると、もう少し丁寧に扱えばよかったのと思うマグロも少なくありません。獲る側の漁業者が売ることをイメージしてマグロを扱ってもらえれば、処理の悪いマグロはなくなると思います。資源を大切にすることも漁業者にぜひお願いしたいです。

責任ある取り組み、実践を

OPRTへの注文は？

布施会長 名前が“責任あるまぐろ漁業推進機構”なんですから、生産者から消費者まで責任ある取り組みが実践されるように頑張ってもらいたいです。とくに、さきほどのマグロをもっと丁寧に扱ってほしいと漁業者に注文を出しましたが、これも責任ある取り組みのひとつだと思います。それができるのは世界のマグロ漁業者が会員となっているOPRTの役割です。規制とか漁獲の問題だけでなく、マグロの質の問題ま

*** 仲卸ってな～に？ ***

布施さんがいる築地市場など大きな都市には消費地市場があります。仲卸（仲卸業者）というのは、そんな消費地市場で、集まってきた魚の価値を正しく評価し、適正な価格で消費者のもとへ平等に届ける役割を担っている業者です。たとえば、マグロの場合。日本はもとより世界各地から市場に集まってきますが、集まってきたマグロはどれも同じではありません。同じマグロでも獲れた場所や獲り方でも違うし、一匹ごとに脂があるものやないものなど品質も個性も違います。そんなたくさんのマグロをすべて見比べ、そのマグロにふさわしい値段を長年の経験などをもとにセリなどで付け、小売業者などに販売するプロが「仲卸」です。仲卸がいるおかげで、あまり価値のないものを高く買ってしまったりすることを防ぐこともでき、消費者も安心しておいしいマグロや魚を適正な価格で購入することができます。

でも含めて「責任ある行動」を推進してほしいと思います。期待しています。

* 刺身マグロの供給量は、2005年で約46万ト（冷凍マグロが34万ト、生鮮マグロが12万ト）あったが、そのうち養殖マグロは全体の1割以下の3万5000トとなっている。

マグロ資源管理機関の動き

インド洋

FAOの下部組織から独立で合意

メバチ漁獲枠設定は合意至らず

インド洋まぐろ類委員会（IOTC）の年次会合が5月22日から26日までインドのゴアで開かれ、インド洋で最大の延縄漁船隻数を持つ台湾がIOTCに正式なメンバーとして参加できるよう、国連機関のFAO（国連農業食糧機構）から独立することを決めた。来年7月に開かれる年次会合で採択される。ただ、今回焦点とされたメバチ漁獲枠の設定

は、各国の思惑が入り乱れる中で調整がつかず、結論は先送りされた。

そのほか、ロンダリング防止のためオブザーバーが乗船しているIOTC登録済み運搬船のみに洋上転載を認めることのほか、来年7月以降、公海操業する長さ15メートル以上の全船にVMS（船位通報機器）の搭載、および海鳥混獲対策として南緯30度以南ではトリポールの使用を義務づけることを決めた。

東部太平洋

メバチ保存管理措置合意できず 作業部会で協議継続に

西経漁場など東部太平洋水域のマ

グロ資源を管理する全米熱帯マグロ類委員会（IATTC）の第74回年次会合が6月28日から30日まで韓国釜山で開かれた。しかし、キハダ・メバチの保存管理に向けた巻網漁業の規制強化などはスペイン、エクアドルの同意を得られず、合意に至らなかった。世界のマグロ資源管理機関の中で唯一「全会一致」で規制措置を決めるIATTCの保存管理措置実現の難しさを浮き彫りにした形になった。

今後は、来年の年次会合までにキハダ・メバチの資源管理問題、分担金、混獲、漁獲能力管理強化問題をテーマとした作業部会を実施、議論を継続していくことになる。

台湾船メバチ船減船 34隻追加し280隻に

2007年末までに実現 日台が合意

水産庁は6月8日、日本と台湾がマグロ資源の持続可能な利用を図るための措置で合意したと発表した。合意は、台湾がこれまで表明していた大型マグロ延縄漁船（メバチ船）の減船数をさらに追加して、2007年末までに280隻に削減するというもの。また、台湾メバチ船は2007年から西経130度以東の操業を自粛することも決めた。

日台間で合意されたのは①メバチを対象とする台湾の大型延縄漁船の隻数を2005年時点の474隻から2007年末に280隻まで削減する②西経130度以東の太平洋における台湾メバチ船の操業を暫定的に自粛する③台湾の小型延縄漁船、ビンナガ漁船の管理強化について日台双方で協力する、の3点。減船総数は、すでに台湾が表明している160隻にメバチ船34隻を追加して194隻となった。

今回の合意により、各地域漁業管理機関（RFMO）における台湾のメバチ漁獲枠と台湾の大型延縄漁船



解体される台湾マグロ延縄漁船

の漁獲能力、さらに便宜置籍で増隻した巻網漁船に相当する漁獲能力の削減も達成されることになるので、日台は①台湾の漁業管理の改善が国際的に評価されるよう、台湾が行う国際社会の説明に協力する②各RFMOにおけるIUU漁業の廃絶、過剰漁獲能力の削減などマグロ資源の持続可能な利用に協力していくことを確認した。

世界のマグロ管理機関が集結

76カ国・地域200人が参加

来年1月、神戸でRFMOs開催へ

世界各地の海でマグロ資源を管理

する地域漁業管理機関の合同会議（RFMOs）が来年1月22日から26日まで、日本政府の主催で日本（神戸）で開催される。参加するのは大西洋マグロ類保存国際委員会（ICCAT）インド洋マグロ類委員会（IOTC）全米熱帯マグロ類委員会（IATTC）中西部太平洋マグロ類委員会（WCPFC）ミナミマグロ保存委員会（CCSBT）の5機関で、加盟する76か国・地域から200人を超える関係者が集結、世界的に過剰と言われる漁船の削減問題やマグロ漁業管理措置の実効を高めるためのグローバル化を協議する。

会議では、現在各委員会が実施しているルールを守る船と守らない船を分けたポジティブリスト・IUU船リストの共通化や、統計証明様式の統一化など技術的調整の可能性を探るほか、漁船数や漁獲能力の過剰な状態をいかに改善のかなどグローバルな対応策等が検討される予定。延縄漁業だけでなく巻網漁業や小型船による漁獲能力管理問題などについても話し合う。

また、混獲の問題などを背景に延縄漁業に対する環境団体などからの圧力が依然高いことから今回の合同会議では、マグロ資源を責任を持って管理するRFMOsの姿勢を世界にアピールすることになりそうだ。

まぐろ資源このままで大丈夫か？

三宅氏が講演

OPRT18年度第1回セミナー



講演する三宅氏

責任あるまぐろ漁業推進機構（OPRT）は6月8日、「まぐろ資源このままで大丈夫か？」をテーマに18年度第1回OPRTセミナーを東京で開催しました。セミナーではFAO（国連食糧農業機関）マグロ漁獲能力管理検討技術諮問委員会委員の三宅真氏が「まぐろ漁獲能力削減の必要性」について講演し、カツオマグロ資源について「カツオと南太平洋のビンナガ以外はほとんどが最大限まで利用されている」としたうえ、

今後のマグロ資源管理について、大型延縄船の隻数抑制以外に「24歳以下の小型船や巻網も含めたすべての漁船に対する管理強化が欠かせない」と提言しました。三宅氏の講演要旨は次の通りです。

マグロ資源の現状は

いま資源に余裕があるのは、南太平洋のビンナガと全海域のカツオ。それ以外は最大限まで利用されている。カツオマグロ漁業は維持できる漁獲水準を越した状態だと理解してもらいたい。

これではいけないと、国際的には、97年からは多すぎる漁獲能力の検討が始まり、99年にFAOは国際行動計画を採択した。各国が管理方策をつくり2005年までに実行することを決定した。しかし、国際行動計画をつくったが進展せず漁船数が増えていることからFAOがさらに作業部会をつくり、国際行動計画の実施を推進しようとしている。来年1月にはすべての海域のカツオマグロの保存管理を担っている地域管理機関が集まる会合が神戸で開かれる。

いまは、延縄の中でも大型（24歳以上）以外の小型延縄の競合が問題になっている。また、巻網の漁獲が飛躍的に増えている。FADs（浮き魚礁）によるもので、94年まで延縄で大部分が獲られていたメバチが近年は缶詰等加工用に獲る巻網によって大量に獲られるようになった。

今後のマグロ資源管理

現在大型延縄漁船は完全に管理下におかれ、国際的規模でコントロールされている。今後は減船を着実に続行し、増隻停止等諸勧告は大型延縄漁船以外のすべて（小型・巻網）にも適用することが必要。具体的には①漁船統計・登録制度の世界的完備、統計証明を全主要魚種に拡大する②現行正規漁船登録制の下限（船長24歳）を下げる③沿岸開発途上国へのデータ収集、船舶管理の支援等が必要。いずれも言うのはやさしいが難しい問題。ただ、これができてはじめて世界的な漁獲の能力管理ができる。地域管理機関が集まる1月の会議はそうした意味で重要な会議になると思う。

賛助会員の 声

マグロ対牛肉、勝負の行方は？

- 脂身好みの日本人 -

岡 史郎さん

魚と肉は同じたんぱく源で、よくライバル視されますが、中でもマグロと牛肉は似ているところが多々あります。マグロのトロは牛肉の霜降り、大トロ・中トロに対し、ロース、リブロースといずれも高級食材で、日本人は脂身の口の中でとろけるような美味しさに目がありません。ただし、このような脂身好みは日本人特有のもので、欧米では赤身の方を好んで食べます。以前、カナダでステーキを食べたのですが、一食の量がものすごく多いのにびっくりしました。知らずに注文すると痛い目を見ます。しかも赤身ばかりだとパサパサして、あまり美味しいと思わず、やはり日本人なんだとあらためて感じました。このような食習慣や味覚は食文化であり、日本は魚食文化、欧米は肉食文化、この違いが表れています。つまり、脂好み=魚食文化であり、良質な魚の脂だからこそ、昔から日本人は積極的に脂を好み、逆に肉の脂は身体によくなく、欧米人は赤身好みになったのではないのでしょうか。

一方、牛肉はBSEという大きな問題を抱え込み、霜降りにとっては致命的です。日本の和牛はだいたい30ヶ月齢で出荷しますが、米国の牛は20ヶ月齢くらいで出荷されます。これは若齢牛では赤身が美味しいのですが、逆に霜降りははでこず、日本人好みの牛肉にするには一定の肥育期間が必要だからです。現在、BSEは20ヶ月未満で確認されていませんが、30ヶ月未満では確認されています。国内では危険部位を除去、さらに全頭検査により安全が証明されていますが、全頭検査がなくなった時、20ヶ月の牛は安全だが、30ヶ月の牛はもしかしたらと霜降りの肉

が敬遠されることも考えられます。

このほか、高齢化が進展し、特に脂身はお年寄りにはきついものですが、それでも食べたいのが人情。そんな時、やはり和牛ステーキより刺身マグロのほうが食べやすいでしょう。以上、マグロ対牛肉勝負、脂身好みの日本人にとり体質・安全性などから結果は明らかでは。

IATTC会議に参加して

- 東太平洋マグロ資源関連 -

有限会社ヨシナリ・アソシエーツ 代表

吉成 義夫さん

6月29日・30日の両日、韓国の釜山で開かれた全米熱帯マグロ類委員会（IATTC）第74回年次会合に、通訳として出席させていただいた。

1950年に創設されたこの機関は正規加盟国15カ国のうち、10カ国がラテン・アメリカを中心としたスペイン語圏のまき網漁業国。当然スペイン語は公用語のひとつで、自国の利害を主張する演説が延々と続いた。イヤフォンで英語の同時通訳を聞こうとしても朗々と響くスペイン語のスピーチが耳を直撃し、精神集中に難儀した。

今回合会での日本代表団の最大の関心事は、メバチ、キハダの保存管理措置強化であった。日本は2007年以降、巻網の休漁期間延長及び浮魚礁（FAD）操業の禁漁期等を内容とする科学委員会による勧告の受入れを強く主張した。だが、日本の奮闘にもかかわらず、スペイン、ラテン・アメリカ巻網諸国の同意を得られず、現行管理措置の一年延長という結果に終わった。現在、巻網によ

るメバチ小型魚の大量漁獲による資源悪化が問題になっているだけに懸念は残る。IATTCの意思決定は全会一致方式という形をとっているため、今回の会合を見る限り各国の漁業に痛みを伴う規制措置の導入が合意されるまでには、今後も難航が予想されそうだ。

議論における時間配分のアンバランスで実質的な保存管理問題に十分時間が取れなかったこと、議長選出や次回会議場所の選定などの2次の問題の扱いが難航し先送りされるなど議事運営上の不手際に日本側出席者の間には不満も残ったように聞く。

蛇足だが、筆者は仕事の上で30カ国以上に足を踏み入れているが、遠い隣国、韓国の訪問ははじめてのことであり、軽いカルチャー・ショックを受けた。まず、飛行場から街中心部に向かう途中目にした、林立する高層マンション群には圧倒された。これらの建物がいっせいに老朽化したときにはどうなるのかという思いが一瞬脳裏をよぎる。次は、市中の標識がまったく読解不能であることのとまどい。

さらに、近代的な建物の谷間に残る昔ながらの市場の風景や人々の立ち振る舞いには失われた日本の懐かしさを覚えた。もちろん、日本では考えられないほどの安価で美味しい韓国料理を味わえた幸せも付け加えなければならない。

—OPRT賛助会員としては、今後、マグロ資源の置かれている現状を踏まえて、マグロが未永く利用できるように、マグロ資源の管理保存措置に関してより実質的な討議が行われるような方向にIATTCが進むことを望みたい。

18年度事業計画

OPRT

6月8日の通常総会で決定

- 概要 -

冷凍マグロ類の輸入実態調査・分析事業

1. 冷凍マグロ延縄漁船の生産実態の把握とその分析
2. ポジティブリスト対象・大西洋蓄養マグロの輸入状況の把握とその分析

マグロロンダリング防止対策事業

1. 太平洋・インド洋 洋上転載管理試験（新）
2. DNA検査の実施

マグロ漁獲能力適正化推進事業

1. 正規大型マグロ延縄漁船のOPRT登録・管理およびポジティブリスト制度のモニター
2. 大型マグロ延縄漁船の漁獲能力管理・抑制の推進
3. 大型巻網漁船の漁獲能力管理・抑制の推進
4. OPRT会員間の中古マグロ延縄漁船の有効活用の推進

海洋生態系保全のための責任ある漁業の推進

1. 海亀、海鳥の偶発的捕獲の削減等 「横浜宣言」の実践推進
2. 行き過ぎた環境保護運動への対処（ICFA等有効団体などとの連携）

編集後記

6月10日、東京築地魚市場大物業会は、水産庁担当官の他、専門家を講師に、今後のマグロ供給見直しについて説明会を開催。周辺の市場関係者も含め、約300人が参加、立ち見の参加者も出るほどで、マグロの供給減少に対する懸念の高まりを示した。日本へさしみマグロを供給するトップスリー、台湾、日本、韓国のマグロ漁船の減少が続いている。減船は、船が無くなるのみではなく、高度回遊魚のマグロを獲る技術、知識、経験の維持が困難となることも意味する。漁獲する遠洋漁船、漁労技術が一旦失われた場合、いずれ資源が回復しさえすれば、直ちに供給量が回復するとの楽観論は現実的ではない。減船の影響は、大きい。（原田）